

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292100031		
法人名	(有)弦観光		
事業所名	グループホーム 吉岐の郷		
所在地	長崎県吉崎市石田町筒城東触1840-3番地		
自己評価作成日	令和7年 1月13日	評価結果市町村受理日	令和7年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 7年 3月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設では、小さな施設の強みを生かして、大きな施設ではできない個別対応を重視しています。具体的には、食事面でのご利用者様への聞き取りからメニューをたてたり、美容室や、買い物の支援、預貯金の引き出しなど、その都度の対応をしています。また、面会や外泊を中止するのではなく、どうしたら可能かという視点から取り組んでいます。また、季節の行事として、おせち、恵方巻、花見、BBQ、うなぎ、お寿司など生ものや、アイスクリームなども提供し、苦手な方には個別に別メニューなどで対応しています。地域とのつながりも重視し、地域の公民館行事には参加を心がけ、より良い関係が築けています。吉岐の介護業界の取り組みにも積極的に参加しており、吉岐島内の研究発表、介護人材の育成確保の取り組みや、将来の介護士の育成のために、小、中、高校への訪問する取り組みにも協力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、島内唯一のグループホームとして、地域で暮らし続けられることが入居者の安心感に繋がるよう、寄り添う支援に努めている。理念には「ゆったり 楽しく 自由に ありのまま」というスローガンが込められている。法人の令和6年度「長崎県福祉のまちづくり賞」受賞をはじめ、副社長は地区青年会代表として活動している。また、職員により研究発表、スポーツイベントへの参加など、法人全体で地域貢献に取り組んでいる。職員は、入居者一人ひとりの願いを叶えることで、幸せを感じてもらえるよう、デートプランと称してエステサロンを利用したり遠方の家族にミカンを送るなどやりたいことを支援している。入居者がNHKのご自慢への挑戦に向けて、家族と協力しながら練習を重ね、着物を着る準備を行った事例もある。たとえ困難な願いでも、無理だと決めつけず、全職員で検討し、実現させる意欲的な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を重んじて、グループホームならではの個人ケアを重視して取り組んでいる。	開設当初に職員で定めた理念の想いを“ゆったり楽しく 自由に ありのまま”というスローガンに込めている。職員と入居者が、コミュニケーションをとりやすい環境の中で、入居者の願いを叶え、幸せを感じて笑顔になることができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域公民館の活動、青年会の活動、地域の体育行事などに職員が積極的に参加している。推進會や、避難訓練などで、ご利用者と、地域の人との交流もある。	公民館の草取りや筒城地区青年会代表、スポーツイベントへの参加など、法人をあげた地域貢献に加え、地域と協働した福祉事業の展開も見られる。現在は閉園となったものの近隣保育園との交流も盛んであった。現在も、中学校の職場体験の受け入れや、地元消防団との顔なじみの関係を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の総会や、推進會での情報の提供にて、どのような方が入所しているか、認知症の状態など理解して頂けるように関係を構築している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進會では、行事や、取り組み、事故の報告、身体拘束などお伝えし、いろいろな立場の方から意見を頂き、感染状況などを話し合いながらイベントを実施したり、事故の改善などに生かしている。	既定のメンバーのもと、年6回の会議を開催している。参加者には、まちづくり協議会の関係者も含まれ、活動報告や災害時の地域連携、ヒヤリハットなど具体的な内容について意見交換が行われており、参加者の意見は議事録に記録し、サービス向上に反映している。家族へも議事録を送付し、情報共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の保険課とは、推進會議の時などに連携を取り、コロナ対応や、虐待の問題など話し合っている。GHとしても、施設運営で、加算や2ユニットへの申請をお願いしている。	管理者は行政担当者と日頃から連携を図っており、事業所のユニット増設なども相談できる関係である。市保健課から情報を得て、壱岐圏域介護人材育成確保対策地域連絡協議会に参加し、小学生への介護士体験やトロミ食の調理、試食、リフト浴の見学会等を実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束、虐待に関して、勉強會などを実施し施設では拘束はしないという共通理解が出来ている。転倒のリスクがある方などにはセンサーマットなど使用し行動の援助を行っている。	事業所は、運営推進會議内で身体拘束委員会・推進會として、身体拘束を議題に挙げ、情報を共有している。また、事業所での事案についても、意見交換を行っている。事業所では、適正化のための指針・研修議事録等の整備に注力しており、年2回は内部研修を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法は、勉強会で定期的実施している。虐待まではいかないが、ご利用者様と、家族の関係が思わしくない事例などあり、その都度議題として共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活の自立支援については、なるべく家庭的な活動を提供し、実施して頂いている。また、成年後見制度については、現在生活保護の方が入所しており、それをきっかけに制度の話を持ちだした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、直接お話しをし、料金の改定も物価高もあり実施せざるを得なかったが、ご家族様には説明、サインを頂く形で対応している。特に問題はなかった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受診時や、面会時にお話をする機会は多く、意見としては外出、美容室、保険の手続きや、遺言の相談なども対応している。	契約説明時に、苦情申し立ての方法や意見箱の設置について説明している。職員は面会時や受診時、電話など家族が話しやすい場面で意見や要望を丁寧に受け止め、必要に応じてサービス改善に活かしている。マイナンバーや外出に関する対応も適切に行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	物価高の状況や、入隊所との関係での経営的な話はよくしている。職員からの安く買う提案や、グループ内の会社間の協力などの提案を受け入れ実施している。	職員は申し送りやミーティング、日常の中で意見や提案を表出する機会がある。職員は、物品購入、働き方や希望休、業務内容の見直しなど意見やアイデアを出している。管理者は否定するのではなく、どうすればできるかを共に考える姿勢で、職員の提案を大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間の勤務状況は出来るだけオープンな形で実施し、平等に譲り合いながら行っている。また仕事のやり方なども、職員間で話し合いながらお互いカバーしながら行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は島内の研修に参加したものが、施設内の研修に報告している。島外へは今年度夏に博多の介護フェアに行くなど、初めて実施できたので今後も出来る範囲で実施していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	壱岐島内ではチーム壱岐のケアニンという施設間を超えた活動があり、うちの職員も参加している。この活動の中で研修をしたり、介護を広める活動を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	金銭の管理、受診の付き添い、美容室や、買い物、小包み外泊の希望などがある場合、その都度対応出来る範囲で行えた。今後も個別に対応していきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭での困りごとは入所時に確認し施設での行動、生活において変化を面会時、受診時にお伝えしている。帰宅願望などは入所以前では多く聞かれたが、入所後には落ち着かれる事例が多かった。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に多いものとしては、徘徊、金銭、火の始末に関する相談が多かった。入所時の条件としてその辺を中心に判断している。また、島外の家族の方も多く、そのような方への買い物、受診の支援はこちらで対応したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で、食事面や、掃除、洗濯などともに活動を行っている。また、見たいテレビ番組や、脳トレの本なども、一緒になって楽しむことが出来ている。職員が出たマラソン大会の映像なども、ご利用者様は見て楽しみ家庭的な環境に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診のルールとして、病院でご家族と待ち合わせて一緒に受診して頂き、感染下でも会えないような状況は作らないように努力してきた。その際に施設側からの状況や、要望などのお話もさせて頂き対応して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の方に友達からの電話などしてもよいか？という相談もあり、許可している。携帯電話を持ち込んでの対応や、面会も全くダメといった状況は作らないようにしている。なじみの美容室への利用もサポートできている。	入居者の生活歴や馴染みに関する情報を事前に収集し、個人カルテを作成している。家族や知人の面会は自由で、カラオケ仲間との外出や親族宅訪問もある。携帯電話を所有したり、家族にミカンを送ることを支援し、人との関係を大切にしている。馴染みの美容室に出掛けたり、在宅時の生活習慣を継続するよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動のなかで、掃除や、野菜切りも入浴や、受診の関係で、色々な方で行っており、利用者様同士も話し合いながら私がしょうか？などの会話も聞かれ職員が間に入らなくても、活動出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了というのが、入院後にお亡くなりになる方が多かった。そのため利用終了後のフォローという形はなかなか難しかったが、入院後の施設での情報の提供や亡くなった時の葬儀での写真の提供、施設でのご本人の様子なども提供させて頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの希望は大切にしている。個人的な作業や、お金をおろしたり、美容院への希望を聞きながら対応出来ている。外出、外泊も柔軟に対応している。	職員は、一人ひとりに声を掛けながら、自宅で行っていたことをそのまま続けてほしいという思いで支援している。入居者が望む暮らし方や日々の希望に耳を傾け、得た情報は個人カルテに記録し、職員で共有して外出支援などに活かしている。個々の生活リズムを優先し、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	性格的に、きれい好きであったり、お世話好きであったり、その人その人の個性を大事に日々の生活をサポートしている。食事面も、好きなもの、嫌いなものに対応し、その時その時のメニューの変更も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由に過ごせる方には、集団生活のリズムを強要せず、部屋で自分の作業をしたりされ、一日のスケジュール的なものは細かくは決めていない。判断が難しい方は、こちらで作業を提供して好きな時に、好きなように関わって頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活がより良くなるように、なるべく日常の活動を提供し、体を動かすこと、頭を使うことなど、バランスよく提供できるようにしている。食事面の制限なども家族と相談しながら、なるべく自由に好きなものを食べて頂いている。受診に関しても、Drと相談しながら、歩く練習や、食べ物の管理を行っている。	介護計画は、長期1年、短期6ヶ月でモニタリングを行い、評価している。個人カルテから抽出した本人、家族の思いを介護目標に反映し、更新時は同意を得て実施している。職員は、毎日サービスチェック表に記録し、毎月のカンファレンスやモニタリングを行い、介護計画の実践状況を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアに関して、毎日ケア記録を箇条書きにして、毎月のカンファレンスで話し合っている。また、介護計画の見直しにも役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の買いたいもの、役所の手続き、選挙や、葬儀への参列など、家族や本人の希望になるべく応えるようにしている。また施設の集団生活にとらわれることなく、どうやったら出来るのか？という視点で考え方を進めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町づくり協議会とは、災害時などお互いに協力体制を確立している。また、消防団の避難訓練参加、それに伴っての職員と消防団の方との慰労会などで地域の方とは顔の見える関係を構築している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設はかかりつけ医を利用しており、協力医を優先しているのではない。受診は主に病院待ち合わせで職員と家族と一緒に受診する形をとっている。入退院の連絡交換もスムーズに行っており、お互いの事情をふまえて調整している。	本人及び家族が希望するかかりつけ医を継続している。受診時は職員が付き添い、病院で家族と待ち合わせている。介護計画への家族の要望等を聴取する機会ともなっている。緊急時の対応を整備している。福岡から来島する医師の時間の都合により、職員の勤務時間を融通する等、島の事情に合わせて臨機応変に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内での変化を感じた時は、まず受診を行っており、病院にもグループホームには看護師が不在なことも理解して頂いている。そのうえで簡単な医療行為も病院にて対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、施設側が1ヶ月の入院期間であると病院側には理解いただいており、1ヶ月をめぐりにリハビリや治療を行っていただいている。それでも退院が難しい時などはカンファレンスをひらき調整をしている。連携室の方とは連絡はよくあり、お互いの研修案内なども行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の体力的な低下が見られる場合は、かかりつけ医、家族に状況を報告しながら、施設で見れる範囲で最後まで介護し、病的に対応できなくなったら入院という形でご理解いただいている。	常勤医師及び看護師の不在や夜間対応困難等の理由から、基本的に事業所での看取り支援は行わないことを入居時に説明し、同意を得ている。主治医が重度化の段階だと判断した時点で、その後の対応等を家族と話し合い、最善の方策を援助している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に関してはデイサービスの看護師と連携を取り、初期の対応、救急車の手配など協力して行っている。救急車の対応など職員もだいがなれてきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎年、夜間、昼間の火災に関して訓練は、地域の消防団、消防署の立ち合いの元、実施している。また、原発の避難先、ルート、水害時の避難先なども確認、防災品のチェックなども行っている。また火災予防の観点から草切なども定期的に行っている。	併設デイサービスと共に年2回の避難訓練を実施し、夜間想定や消防署の立会いもある。また、松浦発電所30km圏内であるため、事業所外への避難を想定した搬出訓練を実施している。ただし、外倉庫に非常食等を備蓄しているものの、入居者ファイルの整備、自然災害やBCPIに沿った訓練は今後の課題である。	自然災害や発電所30km圏内に立地するリスクを踏まえ、BCPIに沿った訓練の実施に期待したい。また、外部支援時に有効活用できるよう、入居者情報カード類の整備が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現在の入所者様はコミュニケーションが取れる方が多く、会話をしながら個人個人の性格や、人格を大切にしている。個人の自由というところにも施設としては力を入れており、なるべく自由に生活して頂きたいと思っている。	職員は接遇に関する研修を受け、尊厳を大切にしたケアの在り方や言葉遣いへの意識を高めている。トイレのドアを閉める等、羞恥心に配慮し、入居者が恥ずかしい思いをしないよう細やかな支援に努めている。個人情報に関する書類は事務所で管理し、職員の守秘義務や写真使用同意書も整備している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活では、着衣などは自分で着替えたりされることも多く、その際の洗濯や、衣替えの協力を行っている。また、食事好き嫌いを把握し、メニューを変えたり、〇〇が食べたかねえといった希望にも答えながらメニューを立てることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間など、片付けがあるからと食べるように促すのではなく、慌てないように、作業の切りが良い時などに食べて頂いている状況である。また、就寝時間などもまちまちで、遅い時には22時すぎまでTVなど見られているときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や起床時の洋服はもとより、入浴後の化粧水や、乳液なども、なくなれば職員に買ってきてほしいと頼まれる方もいる。化粧台を持ち込まれている方もいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は当施設では、楽しみの一つとして重要にとらえている。ご家族様にも入所時に許可を頂いたうえで、食事やおやつなどを制限するのではなく、好きなものをそれなりに自由に、食べて頂くことに取り組んでいる。	職員は、入居者の嗜好や旬の食材を取り入れながら、季節感のある献立を作成している。盛り付けは食材の硬さに応じて、刻み方を調整している。入居者も調理や後片付けなどを手伝い、家庭的な雰囲気である。夏は海の家でのBBQ、季節行事に合わせた特別メニューなど、食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は、栄養面や体重に合わせてDrと相談し足りない分は、栄養補助食などで調整している。水分は、一日に飲んだ量をこちらで把握し、管理している。食事が進まない場合もあるが、その際は本人様の好きなものや、甘いものなどを提供しなるべく摂取に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは出来る方は自分でして頂き、不十分な所だけ介助している。そのうえで、歯の痛みがある場合、義歯の合わなくなった方には、訪問歯科で対応し、訪問歯科の方のアドバイスをもとに磨く場所などのアドバイスを頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は個人のタイミングで行ってもらっているが、なかなか行かれない方もいるので、その方はこちらで声掛け促し確認している。介助も出来る範囲は自己にてして頂き、一人一人介助量を調整している。綿パンツの方も何人かいらっしゃる。	日中はトイレでの座位による排泄を支援し、自立している人は見守りに対応している。排泄チェック表を活用して誘導のタイミングを把握し、カンファレンスでは本人の視点に立って、パッド類の使用を検討したり、布パンツを選択したり、本人が安心して過ごせるよう必要な支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事において、繊維質の多い物や、水分、ヨーグルトなどを意識して提供し、自然排泄に努めている。それでも便秘の方は、医師と相談して、薬の使用を、頻度、量を調整しながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日が決まっているが、イベントや、受診、散髪、面会、入隊所などその日の都合に合わせて入浴日を変えたりしている。正月など希望者は入浴をして頂いた。	毎日入浴の準備を整え、週2回を目安に声掛けを行っている。体調不良や入浴拒否時は無理をせず、別日に変更して対応している。入浴日以外は清拭や足浴を実施している。浴槽にも安心して入れるよう配慮し、入浴後は化粧水や保湿ケアを行うなど、入居者が入浴時に心地よく過ごせるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人は個室のために、部屋で休まれたり、TVを見ながらソファで休まれたりしている。廊下の隅にソファを置いたり、外の芝生のイスにてくつろがれたりするのも春先から秋ごろまでは見られる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診に介護士が同行することが多く、受診後の内服薬の管理も行っている。内服薬の処方を目にする機会も多くなった。ある程度ご利用者様が飲まれている薬の用途は把握できていると思われる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中の活動は、TVが好きな方、脳トレ、色塗りや料理の手伝いなど、面々に行っている。食べたいものの訴えや、外に出る気分転換の訴えなど、その都度話に上がると、取り入れて実行できる範囲で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容室、お金をおろす、一時的な家への外出、葬儀や結婚式への参列など、希望がないことはない。その都度対応できている。また、感染が落ち着けばデートプランとしてさらに柔軟に対応していけそうである	敷地内の散歩や畑での活動に加え、気分転換を目的とした外出を行っている。夏は海の家でのBBQ、紫陽花や藤棚など四季折々の風景に触れるドライブもある。デートプランと称した、入居者の思いのある場所への外出支援は個別に行っている。家族との夕食や外泊もあり、思いに沿った外出で、楽しい時間を過ごしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時にお小遣いとして預かっているお金から、自由に本人のために使わせて頂いている。また、自己管理させる方もいて、おろしに行きたいとの訴えがあったり、いくらたまったか？など聞かれたりされている。化粧品の購入なども訴えがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の兄弟からよく電話がある方がいたり、携帯電話の所持も自由なので、携帯で毎日電話がかかってくる方もいらっしゃる状況である。手紙も年賀状であったり、娘様からの定期的な手紙だったり、小包やアマゾンからの荷物だったり、よく届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は明るく、自然な光が入りやすい作りになっている。眺めもよく、海や船、飛行機など視界に入ってくるものも多い。また、大きな窓からは景色も見え、季節感や天候の変化など感じやすくなっている。季節の飾りなどにも気を付けている。	リビングルームにはソファやテーブルセット、大型テレビを置き、思い思いに寛ぐスペースを確保している。併設のキッチンに大きな作業台を備え、職員の見守りの下で、入居者が調理の下ごしらえを行っている。またシンク前には鏡を取り付け、調理中も入居者の安否確認ができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングの中でも、ソファや、部屋の隅っこなど自分の好きな場所で過ごされている。各個室もあり、部屋で作業されたり、仲の良い方と部屋で過ごされたりすることもある。廊下のソファや、芝生のイスなどにも天気の良い日には出られることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、なるべく自由に過ごしやすい環境にして頂いている。椅子や机はもちろん、こたつや化粧台、昔は仏壇を持ち込まれる方もいらっしゃった。寝具も自由であり、干し柿をつるされてあったりもしていた。	事業所備え付けのベッド、エアコン他、家具類の持ち込みは自由である。誕生祝の色紙、家族から送られた写真や手作りカレンダー、保育園児からのプレゼントであるお守りなどを飾り、温かな雰囲気を出している。週1回リネン類の洗濯、季節毎に寝具のクリーニングを行い清潔を保持し、快適な環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	料理の出来るような作業の机が大きかったり、廊下も広く歩行の練習も行えるようになっている。また引き戸であったり、スロープであったり、建物は歩きやすい作りになっており、なるべく自分で移動出来るつくりである。		